

ジョイセフ・パートナーシップ・プログラム(JPP)



途上国の妊産婦と女性を守る

アフガニスタン

妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクト2013年報告書



母子保健クリニックでの啓発教育活動

プロジェクト概要

目的：

母子保健に関する情報とサービスをより多くの妊産婦と女性に届け、母子保健を向上する。

プロジェクト期間：

2013年1月～12月

現地協力団体：

アフガン医療連合センター (UMCA)

対象地域及び人口：

ナンガハール州ジャララバード市内の10村 3万3200人

支援協力：

三菱東京UFJ銀行及び三菱東京UFJ銀行社会貢献基金、
全国電力関連産業労働組合総連合、
公益財団法人ベルマーク教育助成財団 他、
企業・団体・個人からの寄附金

アフガニスタンへの国際社会の関心が治安維持やテロ活動、大統領選挙などに集まる中、人々に十分な医療が届かない現実は見逃されがちになっています。医療施設や医薬品の不足に加え、女性医療従事者の不足が、特に女性の医療サービスへのアクセスを妨げています。

このような背景の中、ジョイセフは、プロジェクト地域で女性と妊産婦、子どもへの診療サービスに特化した唯一の母子保健クリニックを運営しています。女性医師、看護師、助産師が中心となり保健医療サービスを無償で提供するとともに、周辺の村々で母子保健に関する巡回啓発教育活動も行い、女性と妊産婦の命と健康を守る環境づくりに取り組んでいます。



活動と成果

1) 母子保健クリニックでの保健医療サービスの提供

ジャララバード市近郊農村の妊産婦と女性、子どもたちのべ約 3 万 5000 人に対し、保健医療サービスおよび産前・産後ケア、施設分娩、避妊薬（具）の提供、予防接種など母子保健に関連したサービスを提供しました。



2) 母子保健の巡回啓発活動の実施

助産師の資格を持つヘルスエドゥケーターが、プロジェクト対象 10 村の各家庭を訪問し、のべ約 4000 人の女性に直接母子保健に関する大切なメッセージを伝えました。また、クリニックスタッフとも協力し、母子保健クリニックを訪れた妊産婦と女性のべ約 1 万人にも啓発教育を行い、6000 人を超える女性に個別カウンセリングを行いました。



د لنگون څخه مخکې څارنه
Antenatal Care

امیدواری او زیږون یو ځانګړې حالت دی راځئ چې هغه خوندي کړو

妊婦のマラリさんのストーリーを通して産前健診の大切さを伝えるイラスト教材。巡回啓発活動では、読み書きができない女性でも理解しやすいイラスト教材も使い、妊産婦健診の受診や保健医療施設での出産を呼びかけます。

物資寄贈による支援

配布地域及び対象：

ナンガハール州シュルクロド、ベスード、シェワ、カマ郡の小学校児童および保護者

支援協力：

ランドセル・学用品：個人、団体、企業（株式会社クラレ、アスクール株式会社、日本郵船グループ他）

リサイクル衣料：株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ）

思い出のランドセルギフト

子どもたちが学校で学び、読み書きができるようになれば、保健知識をしっかりと身につけて、自分や家族の命や健康を守ることができるようになります。2013 年は、市民社会の協力により、1 万 9068 個のランドセルを、学用品やろうそくと一緒にナンガハール州の小学校 26 校の児童に配付しました。



ランドセルを寄贈した小学校では、先生の協力を得て、保健衛生や疾病予防に関する保健教育指導も行っています。



ランドセル配付時には、児童の家族に向けた保健衛生・母子保健のメッセージ付カレンダーを子どもたちに手渡します。カレンダーにすることで、家の壁などの目立つところに貼って毎日見てもらうことがねらいです。

リサイクル衣料

日本国内で回収された衣料を母子保健の啓発教育の集まりにきた女性や妊産婦、またランドセルをプレゼントした子どもたちに寄贈し、啓発教育の推進に役立てました。



現地より



2004年、ジョイセフがアフガニスタンに初めて贈ったランドセルを受け取ったリマさん（19歳）【右から3番目】

「ランドセルをもらった時は、小学3年生(9歳)でした。とてもうれしくて、寝る時も枕元にランドセルを置いて寝たこともあります。今は大学の医学部で学んでいます。将来は医師になりアフガニスタンの人々のために役に立ちたいと思います。」

「父はレンガ工場で日雇いの仕事をしています。私には4人の姉妹と2人の弟がいるので、学校で必要なものをそろえる余裕はありませんでした。だから、今日、きれいなランドセルとノートと鉛筆をもらえてとてもうれしいです！贈ってくれた日本の友だちにありがとうと伝えたいです。」

(アブドゥル・ラーマン小学校 グラライさん)

「これからも勉強を続けて、将来は先生になってアフガニスタンの人々の役に立ちたいです。」

(アマル・キル小学校 ムルサルさん)



現地スタッフより

アフガニスタンの母親と赤ちゃんの命と健康を守るためには、貧困、非識字（読み書きができないこと）、女性の行動の制限、(特に女性の) 医療従事者の不足など、様々な障害を乗り越えなければなりません。

妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクトでは、疾病の治療だけでなく、予防にも焦点を当て、妊産婦健診の受診の呼びかけなど保健指導に力を入れてきました。今では、母子保健クリニックは地域住民にしっかり受け入れられ、人々の命と健康を守り続けています。私たちの活動をずっと応援して下さった皆さまに心より感謝申し上げます。

ナシマ・サイード アフガン医療連合センター事務局次長
(写真右)

